

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

税金で命を救う

熊本県立宇土中学校

二年 中島 果子

「社会保障」

この言葉といえば、皆さんは高齢者のためだけに使われるお金やしくみだと思っていますか。社会保障は国の歳出でトップになっていて、社会保障とは、高齢者の方だけでなく、私たち全員が安心して生活していくための必要な公的サービスのことで、年金、介護、福祉、医療などのしくみのことです。

私も「社会保障」と聞くと高齢者のためというイメージが出てきてしまいましたが、医療などにも使われているしくみだということを知りました。私は、二歳のころに動脈管開存症という病気でコイル塞栓術という手術を大きな病院で受けました。そこで、そのときにかかった費用はどうしたのかなどを母に聞いてみました。すると、そのときは二百十万円ほどのお金がかかったけれど、税金によって全額補助されたと教えてくれました。私は、そのことを聞いて税金はともありがたいものなのだと感じるようになりました。また、もし税金が医療費に使われておらず、お金があまりない家庭などで大きな手術をしなければならなくなつた場合、私のように二百十万円が必要と言われても、お金が払えずに治療を断念する家庭もあるかもしれません。そうなってしまうと、救えるはずの命も救えなくなってしまう。私は、そのようなことをなくし、誰もが平等な医療を受けて、たくさんの方の命を救うためにも税金はあるのだと考えました。

中学生の私たちは、「消費税」という形でしか税金を払っていないと思います。ですが、その消費税も一部は社会保障のために使われています。また、大人になると「所得税」や「自動車税」などさまざまな税金を払う必要があります。払うのが大変で嫌だなと思う人もいるとは思いますが、私は、きちんと大人になっても払いたいと思います。なぜなら、実際に自分も税金によって手術を受けることができて、今は元気に生活することができているからです。また、収入が少ない人でも、大きな手術を受けることになったときに私たちが税金を払っていれば、その人の命を救うための手助けをすることができるかもしれないからです。その他にも、もし自分が治療をすることになったときにお金が足りない場合でも、税金によって助けてもらうかもしれません。このように税金は私たちの生活の中で重要な役割を果たしています。だからこそ、私たちは税金を国のためだけでなく、自分たちのためだと考えて、払っていく必要があると思います。その払った税金は誰かの命を救うことができるかもしれません。